

饒舌

芥川龍之介

青空文庫

始皇帝しくわうていがどう思つたか、本を皆焼いてしまつたので、神田かんだの古本屋ふるほんやが職を失つたと新聞に出てゐるから、ひどい事をしたもんだと思つて、その本の焼けあとを見に丸ノ内まるうちへ行かうとすると、銀座尾張町ぎんざをはりちやうの四つ角よかどで、交番の前に人が山のやうにたかつてゐる。そこで後うしろから背のびをして覗のぞいて見ると、支那人シナじんの婆ばあさんが一人ひとり巡査の前まへでおいおい云ひながら泣いてゐた。尤も支那人と云つても、今の支那人ではない。平福百穂ひらふくひやくすゑさんの予讓よじやうの画えからぬけ出したやうな、古雅こがな服装をした婆さんである。巡査はいろいろ説諭せつごをしてゐるが、婆さんの耳には少しもそれがいらないらしい。何しろあんまり婆さんの泣き方が猛烈だから、どうしたんだらうと思つて見てみると、側にゐたどこかのメツセンヂア・ボイふたりが二人でこんな事を話してゐる。

「あれは丸善まるぜんの金きんどんのお母つかさんだよ。」

「どうして又金きんどんのお母さんがあんなに泣いてゐるんだらう。」

「なにね、始皇帝しくわうていが今日けふ東京中の学者をみんな日比谷公園ひびやの池いけへ抛なりこんで、生理いきうめにしちまつたらう。それで金きんどんもやつぱり生理いきうめにされちまつたもんだから、それであんなにお母さんが泣いてゐるのさ。」

「だつて金どんは学者でも何でもないぢやないか。」

「学者ぢやないけれど、金どんはあんまり生物識なまものしりを振まはすから、丸善まるぜんぢや学者つて綽名あだながついてゐるんだよ。だから警察でも大学教授や何かの同類だと思つて、生理めにしてしまつたのさ。」

するとその隣の、小倉こくらの袴をはいた書生が、

「怪けしからんな。名の為に実じつを顧みないに至つては閥族ぼつぞくの横暴も極きはまれりだ。」と憤慨ふんがいした。

自分もそれは乱暴だと思つたから、

「実に怪けしからんですな。」と書生の憤慨に賛成の意を表へうした。書生は自分の賛成を得て大に知己おほいちぎを得たやうな気がしたのでらう。彼は自分の方ほうをふりむくと、滔々たうたうとしてこんな事を辯じ出した。

「万事ばんじこの調子だから驚くです。かう云ふ事には最も理解がある可べき文壇でさへ、イズムで人間を律しようとするんですからな。一度新技巧派いちじどうと云ふ名が出来ると、その名をどこまでも人に押しかぶせて、それで胡麻ごまをする時は胡麻をするし、退治たいちする時は退治しようとするんですからな。我々青年はまづこの弊風へいふうを打破しなければいかんです。僕はこの

間博浪沙はくろうしやで、始皇帝しきわうていの車に鉄椎てつづいを落させました。不幸にしてそれは失敗しましたが、まだ壮心が衰へた訳ではありません。」

かう云つて書生は、群集ぐんしゅうを磨さきながら、

「諸君、憲政の擁護の為にあの交番を破壊しようではありませんか。」と絶叫した。

それに応じてどこからか石が一つ斜ななめに空を切りながら、かちやりと音を立てて交番の窓硝子ガラスへ穴をあけた。その音で気がつくとき、自分は依然としてカツフェ・パウリスタのテエブルに坐つてゐる。かちやりと云つたのは、珈琲コオヒイの匙さしが手から皿の上へ落ちた音らしい。自分は黒いモオニングを着た容貌魁梧くわいごな紳士と向ひ合つた儘、眼を明あいて夢を見てゐたのである。紳士は自分が放心から覚めたのを見ると、

「新年の新聞に何か書いてくれませんか。」と云つた。

「この頃は何も書きたくないんだから駄目だめです。」

「そんな事を云はずに何か書いてくれ給へ。何でもいいのです。たとへば「新技巧派について」と云ふやうなものでも。」

自分はぎよつとした。事によるとこの紳士は自分の夢を知つてゐるのかも知れない。

「それでなければ「旧技巧と新技巧と」はどうです。」

「駄目です。第一新技巧などと云ふ事は考へた事もありやしません。」自分はぶつけるやうに云つた。

「しかし何か書けるでせう。」

「書けば、あなたに頼まれて書くと言ふ事を書くだけです。」

「それでもいいから、書いてくれ給へ。」

紳士はポケットを探つて、原稿用紙と万年筆とを出した。外では歳暮大売出しの楽隊の音がする。隣のテエブルでは誰かがケレンスキイを論じ出した。珈琲の匂、ボーの注文を通す声、夫からクリスマス樹——さう云ふ賑かな周囲の中に自分は苦い顔をして、いやいやその原稿用紙と万年筆とを受取つた。それで書いたのが、この何枚かの愚にもつかない饒舌である。だから孟浪杜撰の責は寧ろ今自分の前に坐つてゐる、容貌魁梧な紳士にあつて、これを書いた自分にはない。

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

饒舌

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>